ポジティブリスト対象病害虫の解説

ウイルス病の一種

学名: Gooseberry vein banding associated virus

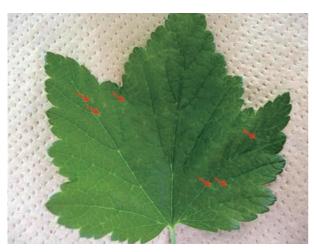
本種は、隔離栽培検査においても、近年フランス産アカスグリ苗から発見事例があり、国内への侵入が警戒されている。また、ニュージーランドにおいても隔離検査の検疫対象ウイルスとされている。

分布地域:オランダ、英国、フランス、ドイツ 等のヨーロッパ。

寄主植物:グーズベリー、アカスグリ、クロス グリ等の *Ribes* 属。

病徴:グーズベリーで顕著に現れ、葉に葉脈緑帯 (vein banding) 症状を引き起こす。その後、次第に樹勢を衰えさせ、収量が低下する。アカスグリやクロスグリでもグーズベリーと同様の病徴を示すが、やや不明瞭となる。また、虫媒伝染としてレタスヒゲナガアブラムシ (Nasonovia ribisnigri)、Aphis grossulariae 及 び Hyperomyzus spp. によるものが報告されている。病原体の形態: Gooseberry vein banding associated virus は、Badnavirus 属に属する二本鎖 DNA からなる植物ウイルスであり、120×30nm の桿形の粒子をもつ。

識別:本ウイルスに対する検査は、上記病徴の有無に注意する他、PCR法を用いた遺伝子診断が有効である。



スグリ属植物における病徴

最近話題となっている病害虫 高知県農業技術センター 垣内 加奈子

チャノキイロアザミウマ

学名: Scirtothrips dorsalis (Hood)

英名:chilli thrips

2008年1月、高知県の施設栽培のシシトウに おいて、チャノキイロアザミウマの加害により 新葉が湾曲、変形し、果実や果梗部が細かくひ び割れる被害が発生した。本種は国内では茶や 果樹の害虫として知られているが、シシトウ・ ピーマンへの加害の確認は初めてで、その後、 土 `田ら(2010)により熱帯(東南アジア)由来 と推定される新系統 (C系統)による被害であ ることが明らかにされた。新系統の発生は2014 年1月現在、高知県内10市町村のシシトウ、ピー マン、トルコギキョウ、イチゴ、マンゴウ、水 晶文旦、レモン、ブルーベリーで確認されてい る。新系統は2008年に沖縄県、2010年に鹿児 島県、宮崎県、熊本県、愛媛県、2011年に千葉 県、2012年に佐賀県、福岡県、2013年に栃木 県でも発生が確認されている。

シシトウ・ピーマンにおいて、新系統は茎頂部に好んで寄生し、低密度でも新葉の縮れをもたらすため、被害許容水準が低い。防除効果のある殺虫剤としては、スピノサド水和剤、エマメクチン安息香酸塩乳剤、ニテンピラム水溶剤などがあり、天敵であるスワルスキーカブリダニ、タイリクヒメハナカメムシなどによる防除効果も期待できる。



シシトウにおける茎頂部の被害